

森林資源等を活用した事業活動の取組例

事例1：岡山県 真庭市

「循環型社会」「循環型地域内経済」による真庭の資源を活かした**真庭ライフスタイル**の確立

バイオマスタウン真庭のイメージ



＜4プロジェクト＞

- ① 真庭バイオマス発電事業
 - ② 木質バイオマスリファイナリー事業
 - ③ 有機廃棄物資源化事業
 - ④ 産業観光拡大事業
- 真庭市は、木材関連業者・森林組合等と共同して、「真庭バイオマス発電」を設立。
 - 平成27年度の運転開始に向け、1万kW（22,000世帯分に相当）の木質バイオマス発電施設の建設、燃料収集・供給体制等の整備を推進中。

【参考】 海外の事例

スウェーデン ベクショー市

スウェーデン南部に位置する中心都市の一つで人口は約8万人。森林が75%以上を占める。



- 市が全額を出資している「ベクショーエネルギー会社」は、21千kWの熱供給能力・30千kWの発電容量を有し、市民2.5万世帯に直接熱供給。
- 発電燃料に占める木質バイオマスの割合は、現在は95%近く。周囲100km圏内の森林から、おがくず等の林業に起因した副産物という形で調達。

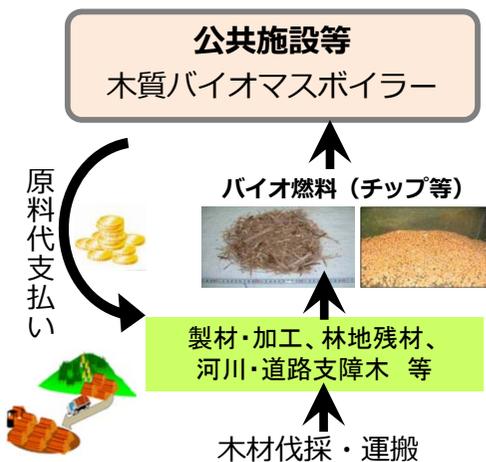
事例3：奈良県 十津川村

紀伊半島のほぼ中央に位置し、森林が96%をしめる。農林業、川魚の養殖・加工が主産業。



- M22年大水害により、1/4の世帯が被害を受け、約3千人が北海道に移住。
- 明治後期から林業が盛んになり（昭和初期まで20-30万石の木材を生産）、人口が回復。S30年頃まで12千人程度を維持。
- H24年には、村内に木材加工流通センターをオープン。
- さらに、山元から販売・消費までをつなぐ取組として、県内ショッピングモール敷地内に十津川村でできた「木灯籠（とほしかん）」を開設し、地域材を使った住宅の良さを発信。

事例2：北海道 下川町



- エネルギー完全自給型の地域づくりを目指し、木質バイオマスによるエネルギー転換を進行中。
- 森林資源を最大効率で活用できる林業・林産システムの構築を図り、林業・木材産業による地域の雇用を創出。
- 高齢化の進む小規模集落の再生に向け、集住化住宅、木質バイオマス地域熱供給、地域食堂など、次世代型社会基盤を整備。
- 薬木・薬草等の未利用森林資源の新用途加工にも取組。

